

- ①自ら考え、判断し、表現できる子どもの育成
- ②言語活動を充実させた教育活動の充実

学力向上推進員 委員 校長(総括) 教頭(総務)  
 教務主任・研修主任・各学年主任・特別支援教育コーディネーター



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 漢字・計算等については、ほとんどの児童が学年相当の習得ができています。	課題に意欲をもって取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができる。	①長期休業日前後(夏季・冬季・学年末)に漢字・計算テストを実施し、児童の80%以上が8割以上正解できるようにする。			
課 題 習得した知識や技能の定着が十分でない児童が少なからずおり、その差は学年が上がるにつれて大きい。	具体的方策(教員の取組) ①朝の学習(チャレンジタイム)や授業の中で、漢字・計算等の学習を継続して実施する。 ②習熟度別プリント等を用意しておき、活用する。 ③保護者と連携しながら、個に応じた個別学習を行う。	取組指標 ①漢字・計算のミニテストやチェックを計画的に実施し、知識や技能の定着を図る。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 自分の思いや考えを進んで伝えようとする児童が増えてきた。	目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の思いや考えを豊かに表現することができる。	①アンケートで「自分の思いや考えを話したり、文章に書いたりするのが好き」と答える児童を、70%以上にする。			
課 題 自分の思いや考えを筋道を立てて話したり、文章で表現したりすることに課題があり、個人差も大きい。	具体的方策(教員の取組) ①「聞き耳カード」やホワイトボードを活用し、聞いたことや自分の考えをまとめさせる。 ②学習活動の中で、自分の思いや考えを筋道を立てて話したり、文章表現したりする機会を計画的に設ける。	取組指標 ①朝会時、全職員が順番に講話を行い、児童の発達段階に応じた形式で、「聞き耳カード」に書かせる。 ②日記(テーマ有)等の記述式の宿題を出す。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 進んで読書を楽しんでいる児童が多い。ほとんどの児童がほぼ毎日、宿題を提出できている。	進んで読書をするとともに、自ら課題を見つけ意欲的に宿題や自主学習に取り組むことができる。	①読書が好きな児童を70%以上にする。 ②学年相当の家庭学習(10×学年)をしている児童を70%以上にする。			
課 題 進んで読書を楽しんでいる児童がいる一方、読書に興味をもてない児童もいる。主体的に自主学習をする児童が増える一方、自分で課題を見つけたり、計画的・主体的に学習することが難しい児童もいる。	具体的方策(教員の取組) ①図書館サポーターと連携を取りながら、魅力的な図書館運営を行い、読書への意欲を高める。 ②個に応じた宿題や自主学習の仕方を指導したり、クラスで紹介しあったりする。	取組指標 ①週末や長期休業日に読書を宿題に出し、読書習慣を定着させる。 ②優れた自主学習ノートを定期的に紹介する。		評価	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ

